

近畿支部会報2014年8月号

暑い毎日、皆様いかがお過ごしですか。休養と水分をしっかりとって、暑さを乗り切ってください。

6月は近畿支部にとって嬉しい月となりました。それは5名もの新入会員を迎えられたことです。そのうち2人は以前会員であった方です。人生の1時期、忙しくてサーバスから遠ざかった人も、舞い戻って下さいました。6月のお楽しみ例会には休会中の方や、サーバスの創始者、天野様以来の会員ですが、めったにお顔を見ない方も来て下さいました。例会に参加して下さいの方が増えています。又、今回のお楽しみ例会をTさんが企画して下さいのように、被災地の方の保養の取り組みはWさんが、今、作成作業に入っている電子ホストリストの表紙はUさんが作って下さる等、いろんな人が活動して下さいます。台湾から、子供5人連れて7人家族のメンバーから、ホスト依頼がありました。無理かなあと思いながら、グループメールでお願いしたら、何と引き受けて下さる方があるので、びっくり、感激です。このように、サーバスの色んな鼓動が感じられるこの頃です。皆で力を合わせて楽しく近畿支部らしい活動が出来ればと切に願っています。どうぞ宜しく。共に歩みましょう。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1、例会報告	支部長
2、トラベル報告	サーバスの報告～ドイツ～吹田市 K.A モンゴルの旅 京都市 H.T
3、トラベラー受け入れ報告	イスラエルからの2人 和泉市 A.K 久しぶりにこんにちは 愛知県 O.T G & R (イタリアのサーバス) 堺市 H.N 短い受け入れ報告
4、お知らせとお願い	支部長

1、例会報告

支部長

日時：2014年6月22日(日) 場所：生駒

出席者：本部役員1名 支部役員3名 家族8名 会員3名(奈良2 大阪1) 会員外1名
計16名

今回のお楽しみ例会は奈良の会員、Tさんが計画して下さいました。盛りだくさんのお楽しみに参加者は胸ワクワクでした。ところが天気予報は雨、近鉄生駒駅集合時は予報通り雨が降っていました。「まあ、昼食をしている内に雨は止むかも」と甘い期待を胸に貸切予約をして下さったレストラン「座辺師友」に行きました。日本的な素敵な雰囲気のお店でおいしい昼食を頂きました。すると何という事か、本当に雨が止みました。ラッキー！ 生駒山の裾の棚田に向かいました。Tさんの畑と小屋はその棚田にあります。小屋はTさんが自分で作られ、無門丘の小屋と命名された素敵な物でした。囲炉裏には畑で取り立てのじゃがいもがホクホクに焼けていて、じゃがいもパーティ、口に頬張るとレストランの昼食より美味しい位でした。その後、思い思いにTさんの畑を散策、じゃがいも堀りや、さや豆を収穫しました。最後は足湯、お湯の温度も丁度良く、体を温めながらのおしゃべりに余念がありません。生駒の自然に抱かれて、楽しい仲間との素敵な例会でした。T様、いろいろ本当にありがとうございました。



2、トラベル報告

サーバスの報告～ドイツ～

吹田市 K.A

Gさん家 (2012/8/23~8/25)

私は8月23日に Herrsching を訪問しました。Herrsching はミュンヘンから電車で50分ほど西へ行ったところにあります。夕方前に到着し、Gさんのお宅は駅から近くにあったので比較的すぐに見つけることができました。夕食にはバイエルンの典型的な食事「Brotzeit」を用意してくださいました。具体的にはパン、ハム、チーズ、サラダを頂きました。その後、ご夫妻と一緒に近くの Ammersee を散歩しました。その後は翌日の観光プランを共に考えて下さいました。



8月24日はミュンヘン市内を一人で観光したのち、帰宅前にヴィクトアリエンマルクトでミュンヘンの白いソーセージを買って帰りました。普通ドイツでは温かいものを晩御飯には食べないため、今回は特別に私のために白いソーセージを調理して下さいました。その他にプレッツェルや、バイエルンで典型的なチーズサラダを用意して下さい、大変楽しく食事を頂きました。次の日の朝は、朝市で買って下さった焼き立てのプレッツェルを頂き、Gさん家をあとにしました。

私はドイツ語を学習しており、ドイツ文化にも大変興味を持っていたため、このようにバイエルンの家庭に実際訪問して、色々とドイツ語で会話できたことは非常に刺激的でした。初めてのサーバスの利用であったため、当初はかなり緊張していましたが、優しい方だったため、有意義な時間を過ごすことはでき、サーバスを利用することができて本当に良かったと感じました。

S-Oさん家 (2012/11/19)



私はマールブルク大学に留学していたため、マールブルクのサーバスのお宅を訪問したいと考え、Lahn川沿いに暮らしているS-Oさんを訪ねました。午後の3時間ほどの間だけでしたが、彼女の友人と三人でおいしい手作りのケーキを頂きながら、談笑することができ、楽しい時間を過ごすことができました。

他にもベルギーやオランダ等を訪問したいと考え、何人かのご家庭にコンタクトを取りましたが、日程が合わず、訪問することは残念ながらできませんでした。今回は2家庭だけでしたが、サーバスを通して色々な人々と出会うことができたのは、非常に興味深い経験でした。ただの旅行とは一味違った旅行ができたのではないかと思います。現地の食文化などに直

接触れることができることがやはりサーバスを利用して旅行する一つの魅力だと感じました。今後もまた機会がありましたら、ぜひサーバスを利用して頂きたいです。この度はありがとうございました。

モンゴルの旅

東アジア会議で、モンゴルの H さんが、「モンゴルでは障害児は教育の枠外に置かれている、その状況を何とかしたい」と話しかけられたのが旅のきっかけで、7月7~24日、夫、妹、私の3人でモンゴルに行きました。

首都のウランバートルはビルが立ち並び、車が行きかう近代的な町です。町にはバスが走っていますが、公共交通機関は十分ではなく、車がかなり必要で、道はいつも渋滞です。そして脇道に入ると、道が水につかっていたり、町の周辺には地方での生活に見切りをつけてゲルをもって移動してきた人達でいわゆるゲル集落が出来、道も電気工事も住民で行っているという発展途上の所です。チベット仏教のガンダン寺や国立博物館等、多くの観光地がある中で、特に印象に残ったのが、ノモンハン事件や、第2次大戦で捕虜となって強制労働に従事し、モンゴルで亡くなった日本人兵の遺骨をまつる日本人墓地です。第2次世界大戦終結後、戦争のために両国間に国交が樹立されていなかった時、モンゴルや日本の赤十字社が中心になって、非常な努力でこの墓地が作られました。そして、ここを平和と友好のシンボルになる公園にしようと、モンゴル赤十字社を退職された方が管理運営されています。墓地は丘の上の見晴らしの良い所にあり、平和を願い、その歩みをされていることに頭の下がる思いでした。



京都市 H.T



モンゴルには国を挙げての祭、ナーダム祭が国家記念日の7月11、12日を中心に行われます。ウランバートルでは11日~13日に行われました。11日は開会式、全くオリンピックの開会式さながらで、大統領も出席して開会のあいさつをされる等、会場は沸き立っていました。それに続いて相撲のトーナメント、モンゴルの力士が日本の相撲で好成績を上げている事が納得できました。馬術は郊外の草原で実施されるため、私たちはその会場に移動。Hさんの親族の方が1位だったので、ゲルでの祝賀に同席させて頂き、夜遅くまでウオッカを飲んだり、私たちも日本の歌を歌って、「遠い所から来てくれた」と歓迎され、皆と心を通わせ、酔いしれました。Hさんのお母さんの家では、羊を一頭買って料理、親類が多く集って祝われ、私たちも仲間に入れて頂きました。ウランバートルでは、昼にはパレード、夜にはモンゴルのダンスやバレエ、オペラが劇場で上演され、3日間、夜遅くまで遊びまわりました。

モンゴルは家族の絆が固く、大家族です。私たちも滞在中、Hさんの多くの親類を訪れたり、Hさんの弟さんやお兄さんが車を出して、色んな所に案内して下さいました。郊外(100~500Km遠い)には2度出かけました。ウランバートルを離れると、家はなくなり、草原が続きます。牛、馬、羊、山羊が放牧されていて、所々にゲルがあるのでなかなか風景です。道中の道は舗装されている所が殆どですが、穴が開いて修理されていない所や、未舗装道路もあって平坦ではなく、そこを運転するのはすごい腕でした。いずれも草原のキャンプ地のゲルやコテージに泊まりました。美しい自然で空気が澄んでいるので、夜は地平線まで星に囲まれるという、地上の楽園でした。

モンゴルは家族の絆が固く、大家族です。私たちも滞在中、Hさんの多くの親類を訪れたり、Hさんの弟さんやお兄さんが車を出して、色んな所に案内して下さいました。郊外(100~500Km遠い)には2度出かけました。ウランバートルを離れると、家はなくなり、草原が続きます。牛、馬、羊、山羊が放牧されていて、所々にゲルがあるのでなかなか風景です。道中の道は舗装されている所が殆どですが、穴が開いて修理されていない所や、未舗装道路もあって平坦ではなく、そこを運転するのはすごい腕でした。いずれも草原のキャンプ地のゲルやコテージに泊まりました。美しい自然で空気が澄んでいるので、夜は地平線まで星に囲まれるという、地上の楽園でした。

キャンプ地の近くの村でナーダム祭をしているので見に行きました。その村にはホテルがなかったのですが、Hさんの親類が学校の校長先生で、その先生が学校の一室に泊まれるようにして下さいました。全くの自然の中での祭りはウランバートルとは違う魅力がありました。又、違う村にはHさんの親類があり、訪れました。そこのおじいさんの何歳かの記念に何と親類が300人も集まってお祝いをされたそうです。田舎の家のトイレは家とは離れた所にあり、土をくりぬいて板を渡した物、電気は来ているけれど、水は川や井戸から得、煮炊きは薪でされています。



モンゴルのあちらこちらで合う人の何人かは日本に来られていて、日本への関心は高いでした。もう一人のサーバス会員宅を訪れましたが、その家族も韓国ですが、4年間住まわれ、息子さんは日本を含めて外国への留学を考えていられました。

肝心の障害児の教育ですが、モンゴルは6~8月と夏休みです。でも、休み中の障害児学校を訪れて校長先生にお話を伺ったり、障害児の父母が運営されている教室、障害児の家庭を訪問しました。「健全者は義務教育だが、障害児はその枠外にある、障害児の教育内容が組み立てられていない、親が障害児を外に出したがる状況がある」等、私が大学生であった時の日本の状況に似ていました。でも、そんな中、何とかしようという意気が感じられて、未来は明るい事を確信しました。

モンゴルは人口約300万人、国土面積は日本の約4倍で、地下自然はあるものの、さしたる工業もなく貧しい国です。かつてはチンギスハーンによって強大な勢力、広大な領土を誇っていたものの、中国とロシアに挟まれて領土は縮小し、一時はDied Countryと言われるまでになりました。1921年の社会主義革命、建国以来、旧ソ連の政治、経済の枠組みにありましたが、旧ソ連崩壊後、1990年に一党独裁を放棄、1992年に新憲法が施行され、民主国家としてスタートを切った若い国です。課題は山積していますが、未来に向けてのエネルギーも溢れていました。



豊かな自然と暖かい人情を心に満たした今回の旅、私も「楽しい旅をありがとう」と過去形にしてしまうのではなく、関心を持ち続けようという思いが残っています。

3、トラベラー受入れ報告

イスラエルからの2人

3月末にどこか旅行しようと考えていたのですが、次々と来るメールは、ホストの依頼でした。ロスにはG&N、トロントはK&P、イスラエルはY&M、イギリスはG&T&A&C、台湾はE&M、ブダペストはIn&Is&G (ffosaka)、エストニアはA&K (ffosaka)、シドニーはD&Sr、皆さんのホストをしました。

そんな中、特に思い出に残ったのは、3月26日~28日までやってきたY&M、イスラエルの2人でした。東京・Iさん宅か

和泉市 A.K



ら我が家にやってきました。JR北信太の駅に迎えに行くと大きな荷物を持っていました。ディナー後、夜の難波に行きたいと希望したので、行ってらっしゃいと送り出しました。

次の日は、大阪城・有馬温泉に出かけ、夕食に間に合うように、帰ってきました。二人は Kibutz に住んでいました。キブツとはイスラエル独自の社会主義的共同体。おもに灌漑事業、農作業に従事しており、国内で消費される野菜や果物のほとんどを生産しているようです。旅行者用にも部屋の提供もあります。

徴兵制度があり、男3年、女2年、その後、軍に残るか進学または就職するそうです。日本の大学生がとって若くて驚いていました。昔、フォークダンス Mayim Mayim 「マイムマイム」を踊りましたが、これは、開拓地で水を掘り当てて人々が喜ぶさまを歌ったイスラエルの楽曲で「水・みず・・・」と言っているそうです。また、彼の仕事は、死海のライフセーバーをしているそうです。「安全な死海浴のために

- ・水の中に飛び込まないこと。
- ・近くに栈橋があるときは、それを利用すること。
- ・しゃがめる所で水の中に入り、静かに後ろへ寝そべること。
- ・頭をしずめないこと。
- ・自分や他人に水をはねさせないこと。
- ・死海の水は飲まないこと。もし飲み込んだ時は、近くのライフガードか救命員に助けを求めること。
- ・こまめに水分補給をすること。

の話の話を聞きました。死海で浮かんで本とか読んでいる写真しか見たことはないけれど、バランスを失うととっても怖い場所です。次に、ユダヤの人の食事、kosher コシエル、聖書に書かれているユダヤ教の食餌規定です。牛・羊・鹿は○、豚・ラクダ・ウサギは×とか、乳製品と肉類を一緒に食べないとか、お皿に何を盛るとか、細かな決め事があり M は、Y のお家に遊びに行き、とっても困ったと言っていました。SET ゲームは、12枚のカードから3枚を探し出すゲームです。よくわからないまま、3回しました。数日後、朝日新聞に国際数学オリンピック選考するために高校生が合宿をした時このゲームがとて人気だとか書いてありました。そして、ペルシャ語で右から左に私達の名前を書いてもらいました。

次の日、Sさんの家に行くため駅に送って行きました。

他のホームステイグループ(*friendship force Osaka)で活動している私達は、6日に清水寺・金閣でのバスツアーと8日の奈良ツアーに2人を誘って一緒に行動しました。その時に、Mが高尾山で下山の時に足を捻って、ちょっと痛いと言っていました。

JR難波近くのL&Lバー&レストランを紹介してもらい、14日、イスラエル料理とビールを楽しみました。Falafel (ファラフェル ひよこ豆のコロッケ) Musuka (ムサカ ハンバーグ) Hummus (フムス ひよこ豆のペースト) Hummus mushrooms (フムスの焼きキノコ添え) Hummus meat (フムスのひき肉添え)、美味でした。

何度となくメールで、足の様子を連絡してくれていたもので、私達も心配していると返信していました。電話で、四国に行くにはちょっと無理もあり、数日休養させて欲しいという申し出を受けました。

27日に新潟・新発田から京都経由で我が家に捻挫した足の休養にやってきました。困っていた2人に日本人の方が東京レスキューに連絡して下さり、下山したそうです。お礼状と写真を見せてくれました。痛みがひどくなったので、京都と新発田で病院に行き、骨には異常がないが関節炎だろう。薬もも

らっていました。新発田のホストは、中学校英語教師でした。生徒達と国際交流をして、また、スノーボーをして、真っ黒になっていました。

28日はYがイスラエル料理を2品作ってくれました。じゃがいも・人参・玉ねぎを煮てミキサーにかけたスープ、人参・玉ねぎをみじん切りにして煮て、卵を入れて蒸したもの、練りごまを水で溶いたものをパンに塗って食べました。準備から飲み物サービス、片付けまでしてくれました。東京のIさん宅に預けてあったテントを送ってもらいました。

29日は、夫とリビングダイニングのワックスがけをしてくれました。夕食後、三宮経由で神戸港に行き、オレンジフェリーで高松へと旅立ちました。Mは、一人残り5月2日まで我が家で、本を読んだり、写真から絵を描いたり、土鍋でご飯を炊いておにぎりを作ったり、アマゾンで購入した柔らかいビニールの平たいボールの上に乗ったり、散歩して過ごしました。

一部の荷物を我が家において、昼間に、JR三ノ宮経由で神戸港からオレンジフェリーで高松に行き、Yと合流しました。レンタカーとテントで、栗林公園、かずら橋、四万十川の沈下橋、宇和島、小さい島、雨の日もあったそうですが、地域の催し物に合流したり、狭い山道にビックリしたりしながら、旅行していました。途中電話で、荷物を取りに我が家に戻るのだけど、1泊させてほしいとの申し出がありました。

8日夜、シドニーからD&S2人を迎えて、話をしていました。そこへ、Y&Mが帰ってきました。ヘブライ語で、4人がしゃべりだしてビックリしました。4人ともユダヤ教だったと聞き、珍しい経験をしました。

9日朝、私に別れを言うために、早起きをしてくれました。福井県小浜市の知り合いのお寺に行くそうです。あと、しばらく日本で過ごすようです。

久しぶりにこんにちは

先週は、素敵なお部屋をご用意いただき、また、あの時期にしかできない、お花見&バードウォッチングサイクリングツアー、ありがとうございました！！京都に行けて、混雑もなく、非常に贅沢な時間を過ごさせてもらってありがとうございました！

どうか、ご主人さまにもよろしくお伝えください（^人^）

Oさんから「大阪に用があって行くのでその前にお邪魔して良いですか。食事は体調を崩して以来とても気を付けているので、野菜が少しあれば私が用意したいのですが、、、」と電話がありました。当日、丁度北海道のYさんが送って下さった美味しい野菜があったので、私が外で草むしりをしている間に夕食を作ってくれました。じゃがいも、玉ねぎ、にんじん、キャベツしか使っていないのに、何と美味しい事！玉ねぎは弱火でじっくりあめ色になるまで炒める等、それぞれの特性を生かした調理法でした。こんなにありふれた材料でと驚きながら、美味しく食が進みました。翌日、彼女は8時前に家を出るというので、早朝から自転車で満開の桜見物、鴨川辺りを四条まで行き、白川通から円山公園を廻って、高瀬川沿いに帰るというコースで、とてもすがすがしい朝の散歩でした。Oさん、又、来て下さいね。

愛知県 O.T



京都市 H.T

G & R (イタリアのサーバス)

堺市 H.N

受け入れ 2014.4.15~16 はちやめちやの2日間。

1回目は最寄りの駅で待つこと1時間40分。“そりゃあ 外国からだもの電車を間違えても、おかしくない。でも気付いた時点でデンワくらい入れるべきじゃないの？”私は人間が出来ていなくて感情がすぐに顔に出てしまう。“アカン、アカン顔に出したらアカン”しかし、感情をあらわす間も無く G は会ったとたん私に抱きついた。「N、怒ってる？ ごめんね！ごめんね！」そのまま、チューを2回「N に会うために日本に来たんよ！ My dearest friend N！！」わあ、もう！いっぺんに機嫌が直った。怒る暇もなかった。さすがイタリア人やなあ。



2回目は迷子事件。翌日、「もう京都で嫌になるほどお寺を見たから田舎の自然を見たい」と言うので奈良の“山の辺の道”へ行くことにした。あいにく私は腰に問題を抱えており歩けない。出発地点で車から降ろし、最終地点の大神神社で会い、いっしょにお弁当を食べることにした。彼らは昨日「日本で自分の携帯を使うと高いから連絡しなかった。」と弁明したので、私の携帯を渡しておいた。約束の時間を1時間程過ぎた。携帯に掛けても出ない。一本道なのでお弁当を持って反対側の道から迎えに歩いた。が全く会えない。そこへデンワ。「後1時間位で着くから。」仕方がないのでまた、約束の場所に戻った。結局、3時間程待った頃知らない日本人からデンワ。「外国人に声を掛けられました。迷子になった様です。今から、〇〇駅へ行くように言いますので迎えに来て下さい。」私たち日本人には間違えるはずのない一本道のようなのだが、外国人にとってはそうじゃ無いって事がつくづく分かった。それから30分位のち、やっと彼らに会えた。小さな駅の前で G は手を合わせて頭を下げている。「ゴメン、N、ゴメン！」私「ええんよ、今日1日はGたちのための日なんやから。」

(独り言⇒カッコイイ台詞やん！！)

帰宅途中、買い物があったと言う。近くのお店に寄ると「Nにお花を買う！」と仏花を持ってレジに走る。「エーッ、チョト待って、待って！ G、このお花は死んだ人にあげるお花やからアカン！」ほんとにびっくりした。

2年前にイタリアで彼らの家に stay させてもらって、今度は日本でいっしょに過ごした。もう会うことは無いと思うけど・・・「G 大好きだよ、来てくれて ありがとう！！」

短い受け入れ報告

芦屋市 T.K

4月17日18日

T P (Austria) 38歳 男 D K (Hungarian) 32歳 女

カップルで2night stay 近隣諸国の戦争でEurope特にAustriaに逃げてきた人達を受け入れて、国の機関では出来ないサポートを民間の機関で受け入れて、その国に返す仕事をしている。

大津市 W.A

アメリカ、S.F 男、48歳、6月17~18日

25年間の交流、殆ど毎年来日でしたが、45歳で初めての男児に恵まれ、育児のため4年ぶりの来日。Kさんが支部長時代に丁度来日中でゲストスピーカーでした。大学で日本

文学を研究、今回は我が家には 1 泊で、日文研がゲストルームを準備して研究協力してくれました。23 歳片言の日本語青年だった彼、努力と幸運を喜んでいます。サーバスのお蔭！

和泉市 A.K

5月8日～10日 D(61才)男 とS(64才)女

お二人が Australia ジェットスターで来られ、旅行かばんが関西空港に届かず、出発の10日昼に配送されました。そんなトラブルもあり、21時30分頃我が家に着きました。8日の日は、2組が泊まってくれたのですが、ヘブライ語の会話が始まり、びっくりしました。その後、Hさん宅へ移動しました。

4、お知らせとお願い

支部長

* 次の支部例会は10月26日(日)、お昼を挟んで大津市の会員Wさん宅で行います。詳しい案内は後程いたしますので、宜しくご予定下さい。

* 来年の日本サーバス国内会議は九州で3月14日(土)15日(日)に行われます。多数ご参加ください。

* 3年に1回開催されるサーバス国際会議は2015年10月10(土)～10月16日(金)、New ZealandのAotearoa(北島)で行われます。それと前後して同じくNew Zealandで国際サーバスのユースミーティングも開かれます。色んな会議に参加してサーバスを楽しんで下さい。

* 会員の異動

・ 昨年の滋賀での例会で地震のことについて講演して下さいだった京都市の会員S.Hさんが関東支部に移籍されました。

・ 交野市のK.Kさんが再入会され、早速イギリスにサーバス旅行をされています。

・ 京都市のK.T、S.Aさんは子供に個室がいるようになってゲスト用を用意することが難しくなると退会されましたが、ディホストとして再入会されました。

・ 京都市S.Yさん、神戸市Tさん、大津市Sさんが新入会されました。

皆様、宜しくお願いします。

* 2014年度サーバスの年会費(一般3000円学生2000円休会者B1500円)をまだお納めいただいていない方は、下記の口座へ宜しくお願いします。

口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部